

編集・発行：
飯能消防団広報委員会



かわらばん



地域と消防団

特集 あぶなかつた夏!! 1999

— 精明地区不発弾処理、吾野駅土砂災害 —

◎ 飯能消防団 編成図及び団幹部一覧

平成11年度

第 **6** 号

地域と消防団

飯能消防団 団長

小久保 勝弘



消防団は「自らの手で郷土を守ろうとする精神」に基づき、火災、水災の防衛活動をはじめ、救助活動や遭難者の捜索活動など広範囲な活動を展開してきました。

また、地域における各種の行事等に積極的に参加し、地域に密着したコミュニティ活動にも微力ながら支援してまいりました。

二十一世紀を迎えるに、消防団では活動拠点施設の整備、機械器具の充実、団員の処遇改善をはじめ、現在、組織等を見直すための長期計画委員会や活性化委員会等を設置し、団の活性化に取り組んでおります。近年、サラリーマン消防団員の増加と就業地の遠隔等昼間における消防力の低下が

心配されます。近い将来、飯能消防団も女性消防団員を組織化することが極めて重要であると考えます。また、新時代に対応するために、柔軟なイメージアップを図りながら団員に魅力的な消防団でなければと考えます。

消防団は、地域防災のリーダーとして、今後も従前以上にきめ細かな予防活動や地域に密着した啓発活動を行い、防災の中核として住民の期待と信頼をつなぎとめ、地域住民に支えられてはじめて消防団たり得ると考えます。

地域連帯の要たる消防団は、地域住民との連携が特に重要であります。

今後もしもご支援、ご協力をお願い申し上げます。



安全な地域社会を目指して

飯能市消防後援会連合会

会長 梨木 芳太郎

飯能市内の各分団には、消防後援会が組織されており、消防団と消防後援会とは、地域への愛護の精神と奉仕の心で連帯しています。

二十一世紀を目前に控え、社会もますます複雑化の傾向にあり、災害状況を見ますと、火災、水災、ガス爆発、地震等各地で多くの災害が発生し、尊い人命や多くの被害がとりざたされています。これら各種災害から地域の人々の安全を確保するには常備消防機関のみならず、団員の方々の協力が何より必要であります。

飯能消防団にあつては団長を中心に消防本部と一体となつた消防活動を心から期待するとともに、消防後援会についても今後とも団員の支援に努めてまいります。



自分が育った街だから

第二分団 新入団員

宮寺 哲夫

飯能消防団に入団して、実際に災害現場での活動も経験し、消防団員としての緊張感や責任感が増してきたところです。

災害現場での先輩団員の機敏な動きを見て、改めて日頃の訓練の重要性を感じました。

一日も早く先輩団員のような働きができるように、数多くの訓練を積み、しっかりと身に付けていきたいと思っております。



平成11年度 飯能消防団 新入団員

四月に行なつた入団式での入団者宣誓の言葉を念頭におき、飯能で育つたこの住みよい環境をよりよくできるように、「自分の街は、自分で守る」の精神で、大切な市民の生命、財産を守っていききたいと思ひます。

そのためにも、訓練に積極的な気持ちで参加し、災害活動に役立てられるように、頑張っていきたいと思ひます。



山林火災訓練



新入団者宣誓

飯能に不発弾が!!

出たあーなんと重さ二百五十キロもの不発弾だ。わが街飯能にも五十四年前の戦争の爪跡が土の中に埋まっているとはとても信じられないビッグニュースだった。この爆弾の処理を七月二十五日に自衛隊らの手によって行うことになり地元住民を始め、大勢の人の注目を集めた。



今年二月から本格的な調査が始まり爆弾の存在が明らかになった。当日は、市の職員、自衛隊、警察、消防ら関係機関約三百人が動員され半径三百メートル内を立ち入り禁止区域とし、付近に住む四十五

世帯百七十人を避難させるというものだった。

消防団にあたっては、住民の方々が速やかに避難できるように作業の一時間前から、積載車で広報しながら巡回し、その後各所定の位置で交通整理を行った。安全宣言が出された後の作業は住民たちにも公開された。穴の中からクレーンで吊り上げられた不発弾は予想以上に大きいもので、もしこれが爆発していたらと考えると背中がぞっとした。無事に作業が終わったことはなによりである。戦争を知らない私達が生々しい物体を目の前にし五十四年前の夏の日をまさに体験しているような気持ちで暑い一日を終えた。



広報活動

あぶなかつた夏!!

1999

吾野駅南側の山崩れ



飯能市では、八月十二日から十四日の記録的な大雨（総雨量はなんと四一八・五ミリメートルを記録!!）により各地で被害があり、消防団員も大雨の中、ずぶ濡れになって警戒にあたりました。

吾野駅南側斜面の山崩れでは、土砂が駅のホームを直撃し、民家のすぐ近くまで押し寄せましたが、幸いなことに死傷者はありませんでした。災害は、いっどこで起こるかわかりません。もう一度、

避難場所の確認や、非常食等緊急時に持ち出す物の準備をしておいてはいかがですか。

がんばった第八分団

八月一日、中藤上郷地内で六十代の女性が行方不明となり、朝から暑い中、捜索が開始されました。なかなか発見ができず、重苦しさも漂う中、八分団員の懸命な捜索が実り、無事発見されました。

一日大変ご苦労さまでした。

